



事例紹介



加山興業株式会社

愛知県名古屋市の加山興業(株)は「緑あふれるクリーンな日常を世界に」を道しるべにし社会の進歩発展に貢献します。



積極的な情報開示で静脈産業の社会価値を向上

CN取組の内容

● 廃棄物処理業で地域初となる中小企業版SBT認定

地域
初

2021年に2030年に50.4%削減、2050年のカーボンニュートラルを目標に設定して中部地域の廃棄物処理業として初めてSBT認定※1を取得。

● RE100を達成

自社プラントに太陽光発電を導入し、再エネ電力導入と併せ、自社工場および事業所の使用電力を全て再エネ由来とし、RE100を達成。

● RPF※2によるCO2削減

石炭に比べ約33%のCO2排出低減効果のあるRPF。古紙と廃プラスチックから製造し、製紙会社等へ提供しCO2削減に貢献。

● 社会全体で持続可能性を目指すために

民間企業向けに、SDGsを企業活動に実装させていくためのサポートを実施。情報開示の方法についてもノウハウを共有。

ここがポイント

太陽光パネルリサイクルによるCO2削減



使用済の太陽光パネルは今まで100%埋め立てであったが、新たなリサイクル設備の導入により、約99%リサイクルが可能となり、1tあたり1,693kgのCO2削減に貢献。

企業価値の向上

SBT認証を始めとし、サステナビリティレポートなどで外部へ積極的に情報開示を行ったことで、対外的に信頼できる企業としての評価が高まり、新規受注を獲得。

 <https://www.kayama-k.co.jp/library#csr> (サステナビリティレポート)

養蜂環境モニタリング

周辺への環境汚染が発生していないか調査するためミツバチを飼育し、採取した蜜は分析にかけてモニタリングすることで、廃棄物の適正処理とリサイクルを推進。

また、蜂蜜を販売するイベントでの収益の一部で、Jクレジットなどの環境価値を購入し、販売イベントの排出量をカーボン・オフセット。

※1) SBT…Science Based Targetsの頭文字を取った言葉。パリ協定達成のために企業が設定する温室効果ガス削減目標。

※2) RPF…Refuse derived paper and plastics densified Fuel の略称。主に産業系廃棄物のうち、マテリアルリサイクルが困難な古紙及び廃プラスチック類を主原料とした高品位の固形燃料。